

令和3年度上半期 地域経済景況調査報告書

大東商工会議所
大東市

○目的

地域経済の景況を把握するため、市内事業所を対象に景況調査を半期毎に年2回実施する。
調査概要是以下の通り。

○方法 往復はがきによるアンケート方式、窓口等でも依頼・回収

○調査期間 令和3年4月～令和3年9月

○対象 市内の1535事業所

○回答状況 回答事業所 331社 (令和3年10月29日現在)

(業種)

製造業	115社	34.7%
非製造業	建設業	52社
	卸売業	28社
	小売業	51社
	飲食業	16社
	サービス業	69社
	非製造業計	216社
合計	331社	100.0%

(従業員規模)

0～5人	186社	56.2%
6～20人	79社	23.9%
21～50人	35社	10.6%
51～100人	16社	4.8%
101人以上	15社	4.5%
合計	331社	100.0%

※四捨五入により合計が100.0%にならない場合がある

○調査データ

調査の結果を示す指標としてDI指数を採用した。DI指数とは、Diffusion Index(景気動向指数)の略で、各調査項目について「増加」「好転」した等とする企業割合から「減少」「悪化」した等とする企業割合を差し引いた数値である。即ち、プラスは上昇・増加・黒字基調等の企業割合が上回り、マイナスは下降・減少・赤字基調等の企業割合が上回ったことを示す。

【全国の景況】

景気は、新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるなか、持ち直しの動きが続いているものの、そのテンポが弱まっている。

- ・個人消費は、弱い動きとなっている。
- ・設備投資は、持ち直している。
- ・輸出は、増勢が鈍化している。
- ・生産は、このところ一部に弱さがみられるものの、持ち直している。
- ・企業収益は、感染症の影響により、非製造業の一部に弱さが残るものの、持ち直している。
- ・企業の業況判断は、一部に厳しさは残るものの、持ち直しの動きがみられる。
- ・雇用情勢は、感染症の影響により、弱い動きとなっているなかで、求人等の動きに底堅さもみられる。
- ・消費者物価は、このところ底堅さがみられる。

先行きについては、感染対策を徹底し、ワクチン接種を促進するなかで、各種政策の効果や海外経済の改善もあって、景気が持ち直していくことが期待される。ただし、国内外の感染症の動向や金融資本市場の変動等の影響を注視する必要がある。

* 内閣府発表 月例経済報告(令和3年10月)による

【大東市の概要】

今回の調査対象期間中、緊急事態措置やまん延防止等重点措置がとられた期間が大半を占め、「原材料価格」や「資金繰り」等で厳しい結果が出た。他方、その他多くの項目にて前回令和2年度下半期の数値から改善傾向が示され、特に「来期の業況見通し」において製造業・非製造業ともに大阪府の指標を上回る結果となったことは、コロナ禍収束への期待感と同時に今後への明るい兆候も一部見受けられた。その他、今回は「事業承継の予定」と「D-Biz(認知度)」に関する特別調査を行ったところ、各々「未定(32%)」「知らない(38%)」との回答も一定数あり、本市産業における課題の一端を窺い知ることができた。

	出荷・売上高	製・商品単価	原材料価格	営業利益	採算状況	資金繰り	雇用状況	設備投資	来期の業況見通し
製造業	晴	晴	雨	曇	雨	曇	雨	晴	晴
非製造業	雨	晴	雨	曇	雨	曇	雨	曇	雨

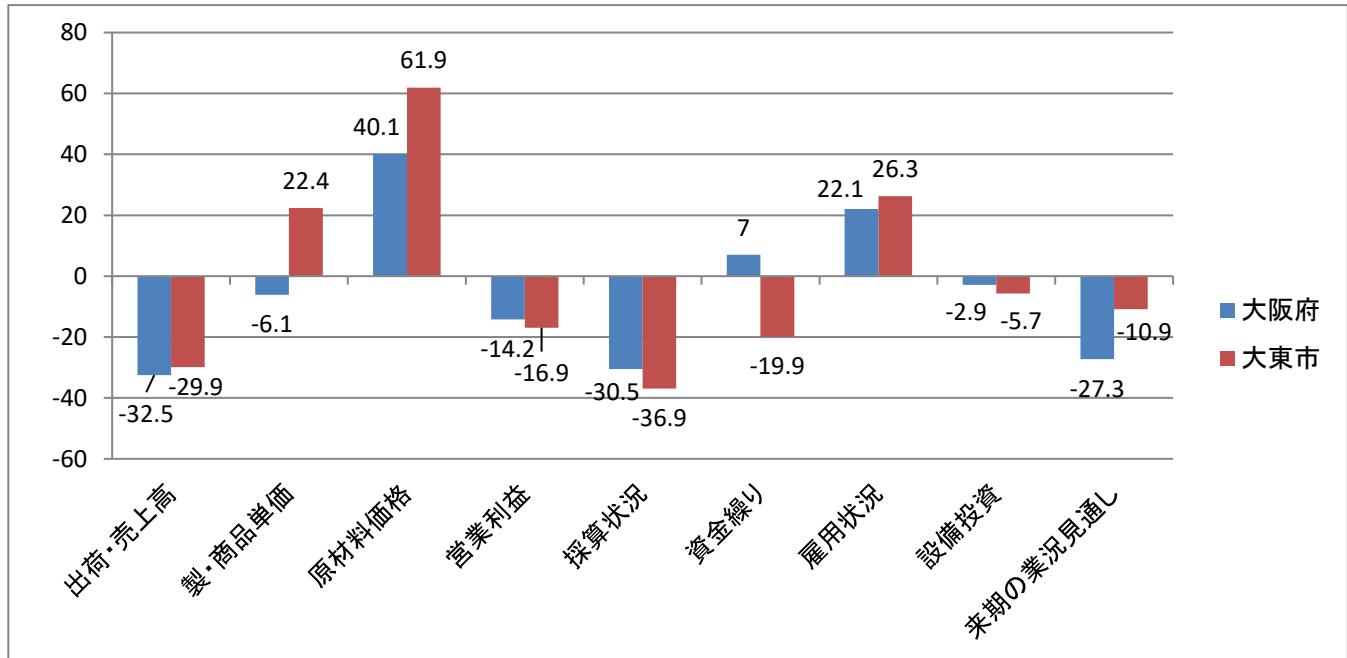
DI値:  … 5以上  … -5～5未満  … -15～-5未満  … -25～-15未満  … -25未満

* 原材料価格及び雇用状況に関しては、数値を反転して評価する。

【大東市内企業の景況及び大阪府との比較】

DIのまとめ（大阪府との比較）

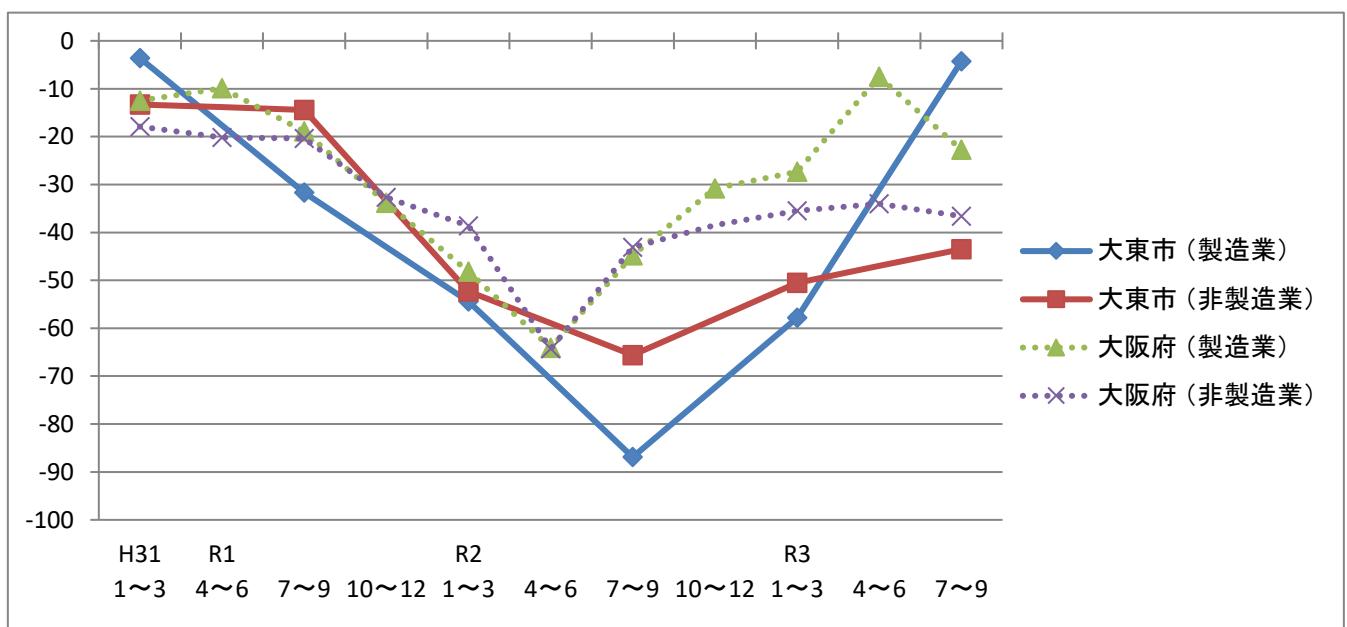
大阪府の指標との比較では、大東市内企業は「出荷・売上高」「製・商品単価」「原材料価格」「来期の業況見通し」で上回ったものの、他の項目は大阪府の指標よりも低位であった。なかでも、「原材料価格」「資金繰り」の項目は大阪府の指標を大きく下回る結果となった。



○出荷・売上高

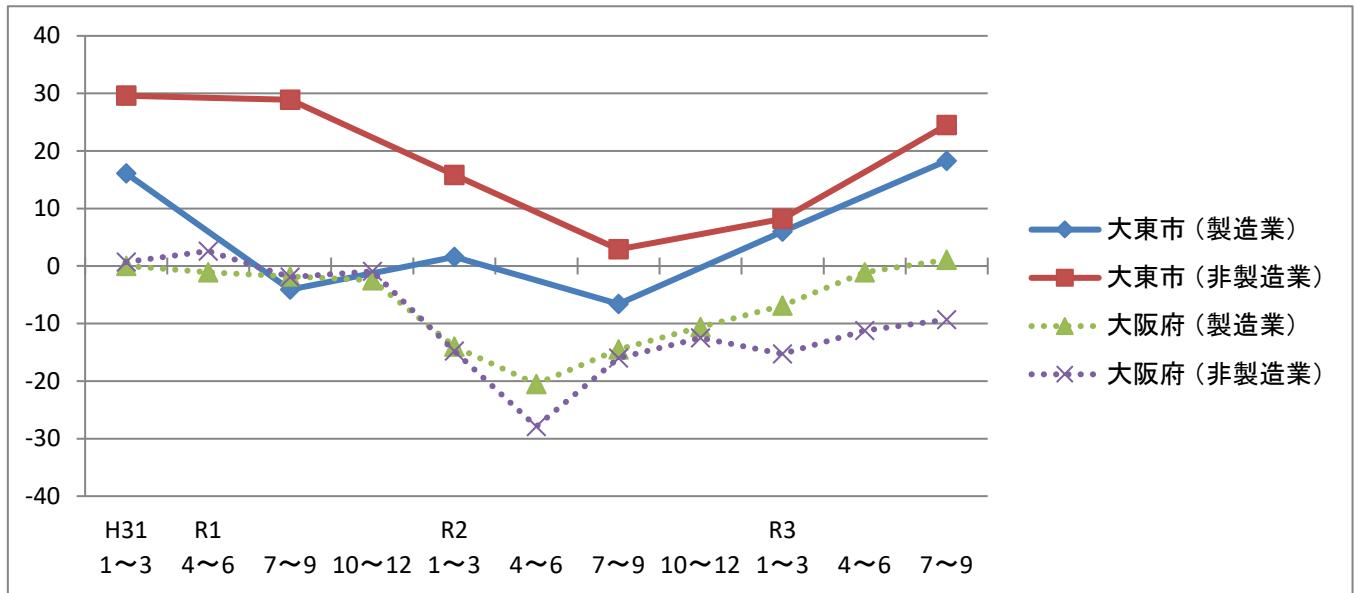
出荷・売上高DI（「増加」-「減少」企業割合）⇒ 製造業：-4.3% 非製造業：-43.5%

前回調査結果（製造業：-57.8%、非製造業：-50.5%）から、製造業・非製造業ともに改善したが、非製造業の改善は緩やかである。直近の大阪府データ（製造業：-22.7%、非製造業：-36.6%）との比較では、製造業で18.4ポイント上回り、非製造業では6.9ポイント下回った。大東市内においては、前回の調査から引き続き飲食業のマイナスが際立ち、売上増加の店舗はゼロで-75.0%といった厳しい結果であった。



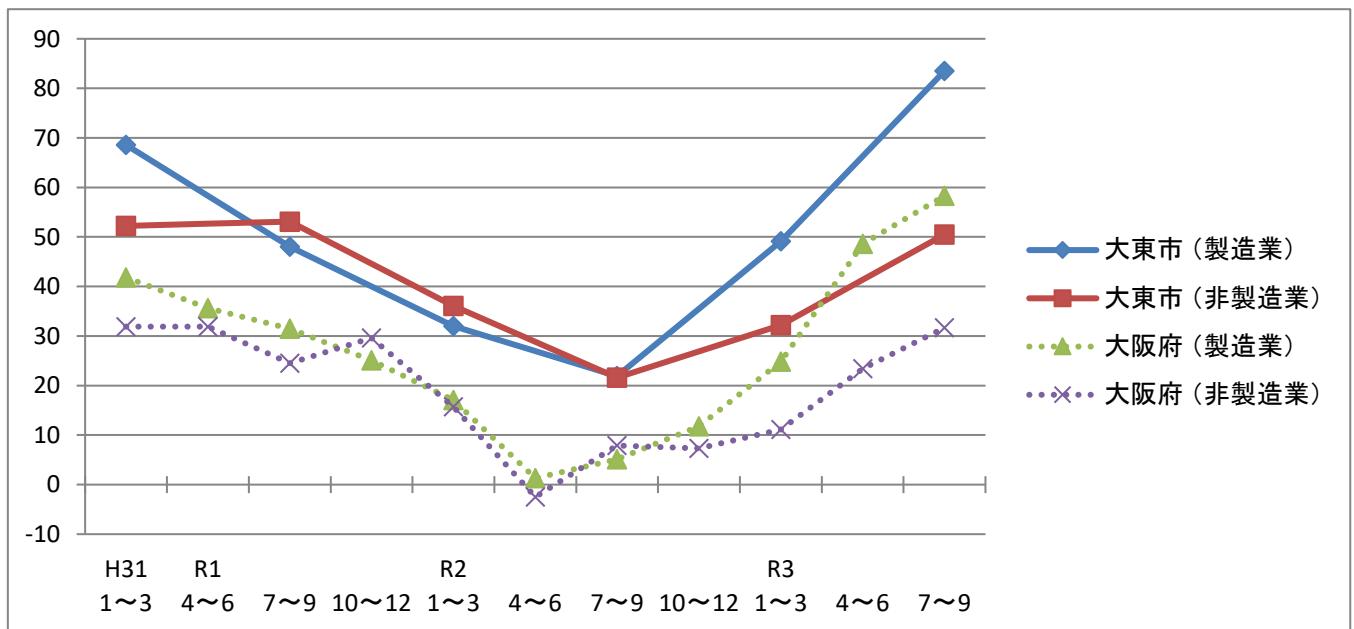
○製・商品、サービス等の単価

製・商品、サービス等の単価DI(「値上り」-「値下り」企業割合)⇒ 製造業:18.3% 非製造業:24.5%
 前回調査結果(製造業:6.0%、非製造業:8.2%)から、製造業・非製造業ともに上昇した。
 直近の大阪府データ(製造業:1.1%、非製造業:-9.3%)との比較でも、製造業・非製造業ともに上回る結果となった。大東市内においては、建設業(40.4%)、飲食店(37.5%)の単価が高く、反対にサービス業(14.5%)の単価が比較的低位であった。



○原材料・部品等の仕入価格

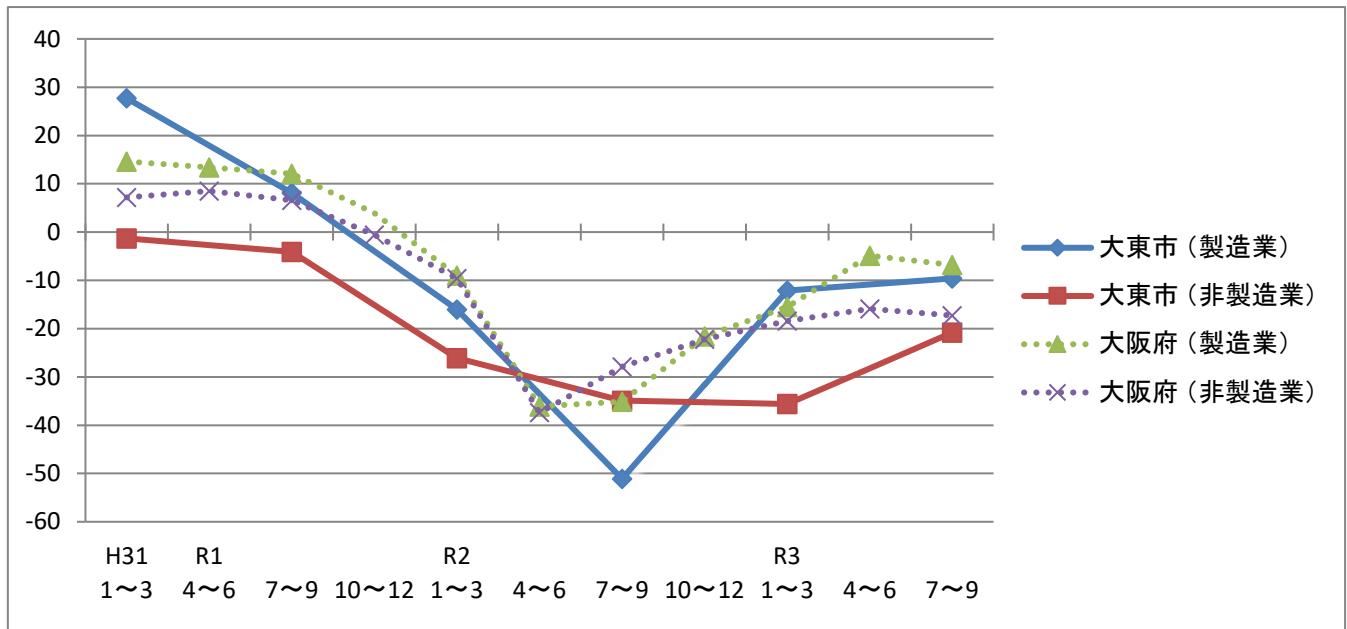
原材料・部品等の仕入価格DI(「値上り」-「値下り」企業割合)⇒ 製造業:83.5% 非製造業:50.5%
 前回調査結果(製造業:49.1%、非製造業:32.2%)から、製造業・非製造業ともに上昇の結果となった。
 また、直近の大阪府データ(製造業:58.3%、非製造業:31.7%)との比較では、製造業は25.2ポイント、非製造業は18.8ポイントのプラスと、数多くの市内企業が継続して仕入価格の値上がりを感じている現状が窺える。市内では、今回、製造業とともに飲食業(68.8%)での仕入価格の値下がり回答は0件であった。



○営業利益

営業利益DI(「黒字」-「赤字」企業割合)⇒ 製造業:-9.6% 非製造業:-20.8%

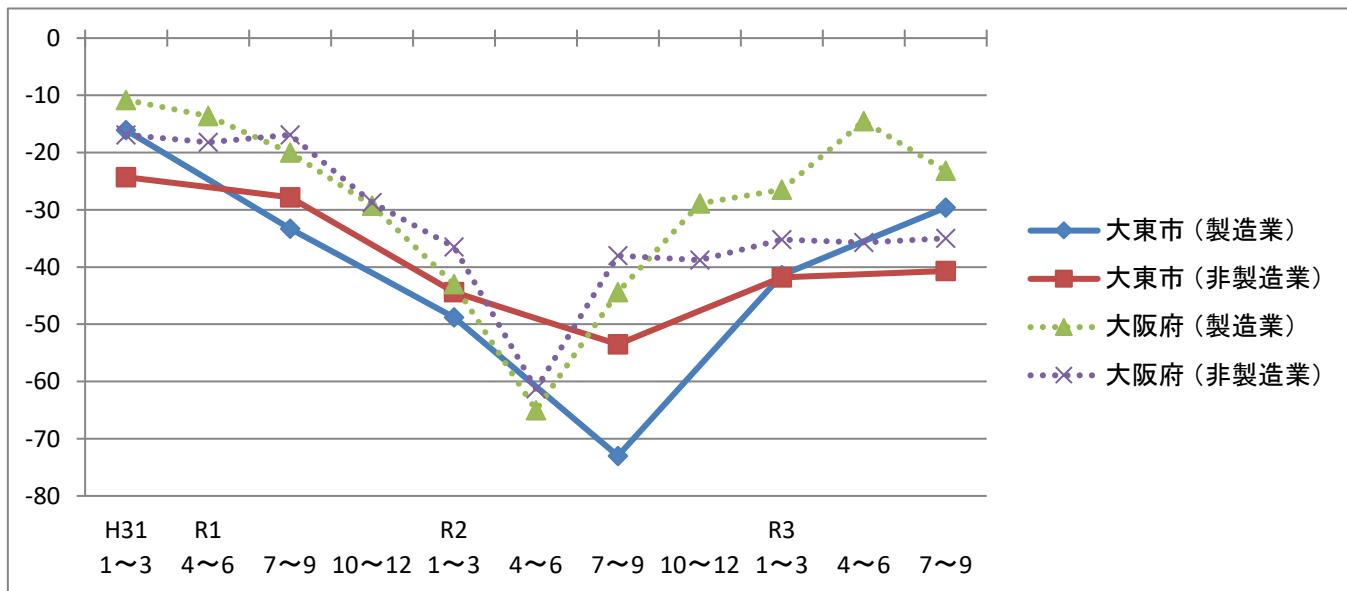
前回調査結果(製造業:-12.1%、非製造業:-35.6%)から、製造業・非製造業ともに改善、赤字幅の縮小傾向がみられた。また、直近の大阪府データ(製造業:-6.8%、非製造業:-17.3%)との比較でも、製造業・非製造業ともに大阪府の数値をやや下回った。大東市内では、前回と同様に、飲食業(-50.0%)の厳しさが際立つ結果となった。他方、大東市内では卸売業(0.0%)が最も高い数値を示した。



○採算状況

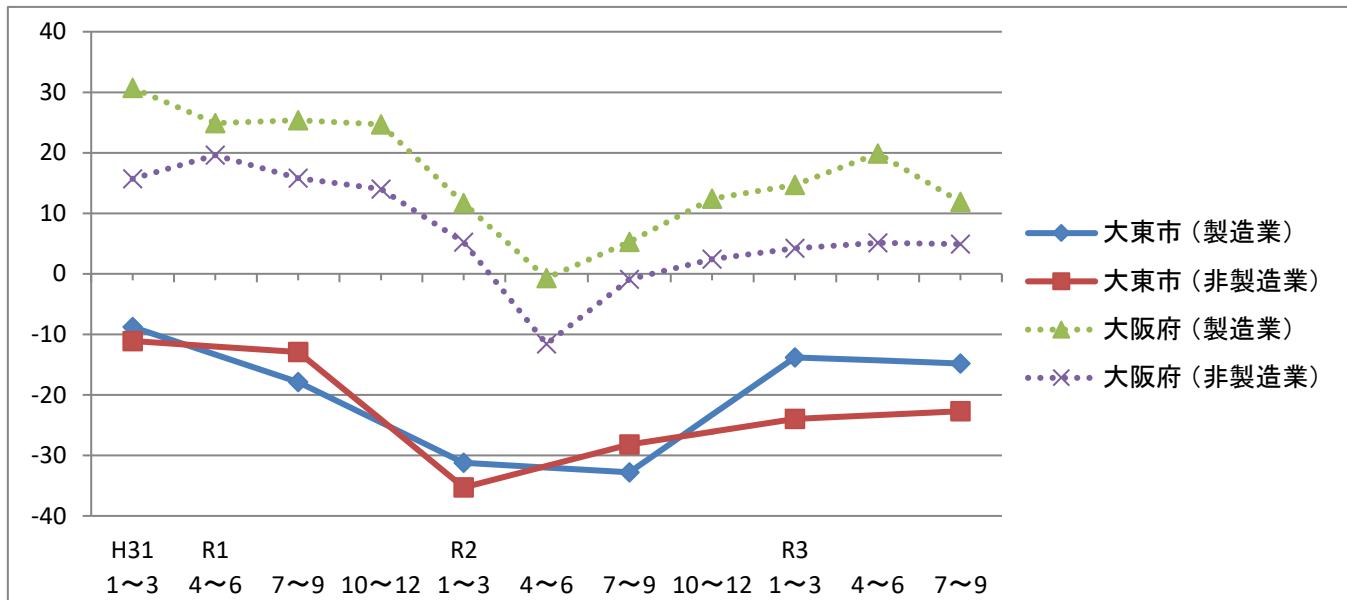
採算状況DI(「良くなった」-「悪くなった」企業割合)⇒ 製造業:-29.6% 非製造業:-40.7%

前回調査結果(製造業:-41.4%、非製造業:-41.8%)から、製造業・非製造業ともに改善はしたが、製造業の改善傾向が明確であった一方で、非製造業の改善は幅の小さなものとなった。また、直近の大阪府データ(製造業:-23.2%、非製造業:-35.0%)との比較でも製造業は6.4ポイント、非製造業は5.7ポイント下回った。採算状況の調査でも、市内の飲食業(-56.3%)、サービス業(-53.6%)の厳しさが顕著であった。



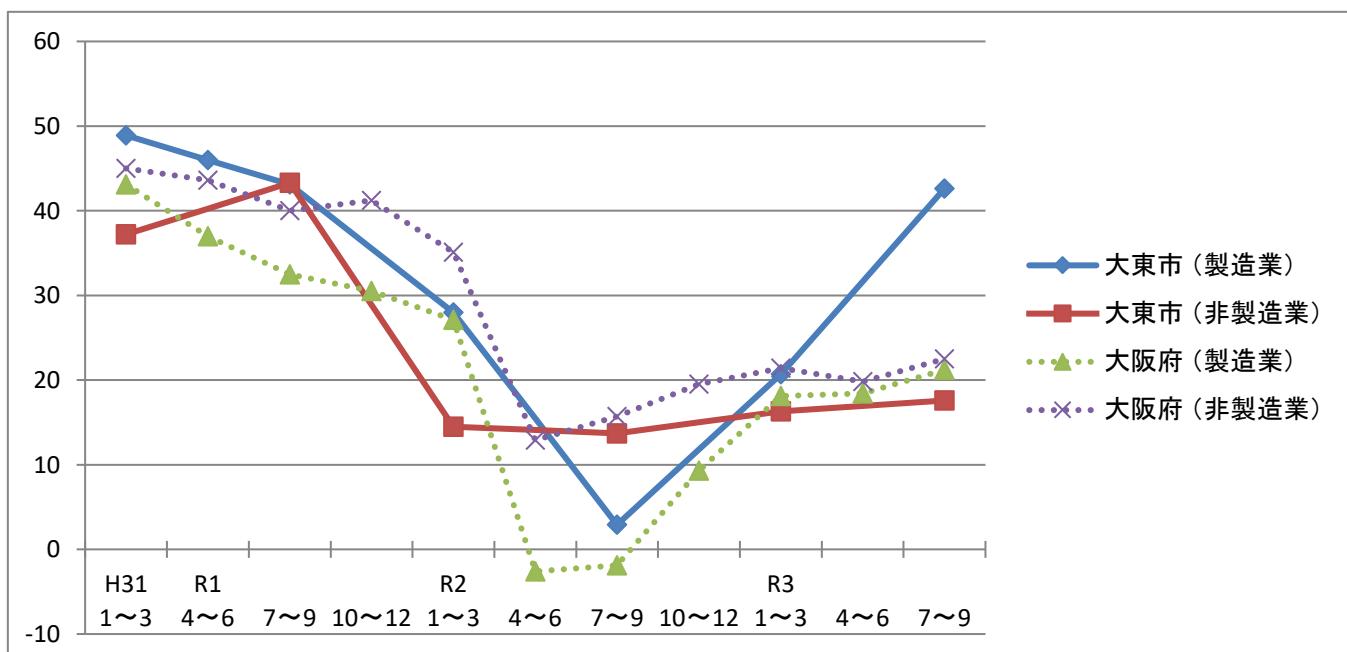
○資金繰り

資金繰りDI(「良くなった」-「悪くなった」企業割合) ⇒ 製造業:-14.8% 非製造業:-22.7%
 前回調査結果(製造業:-13.8%、非製造業:-24.0%)から、製造業はやや悪化、非製造業はやや良化した。また、直近の大阪府データ(製造業:11.9%、非製造業:4.9%)との比較では、製造業が26.7ポイント、非製造業が27.6ポイント下回っており、今回も市内飲食業(-43.8%)が最も資金繰りに窮屈であるとの結果を示した。その他、市内サービス業(-29.0%)においても「良くなった」との回答は皆無で、改善余地の大きいことが窺えた。良化と悪化の範疇で対峙し、本項目が府との差が最も顕著であることは従来と同様である。



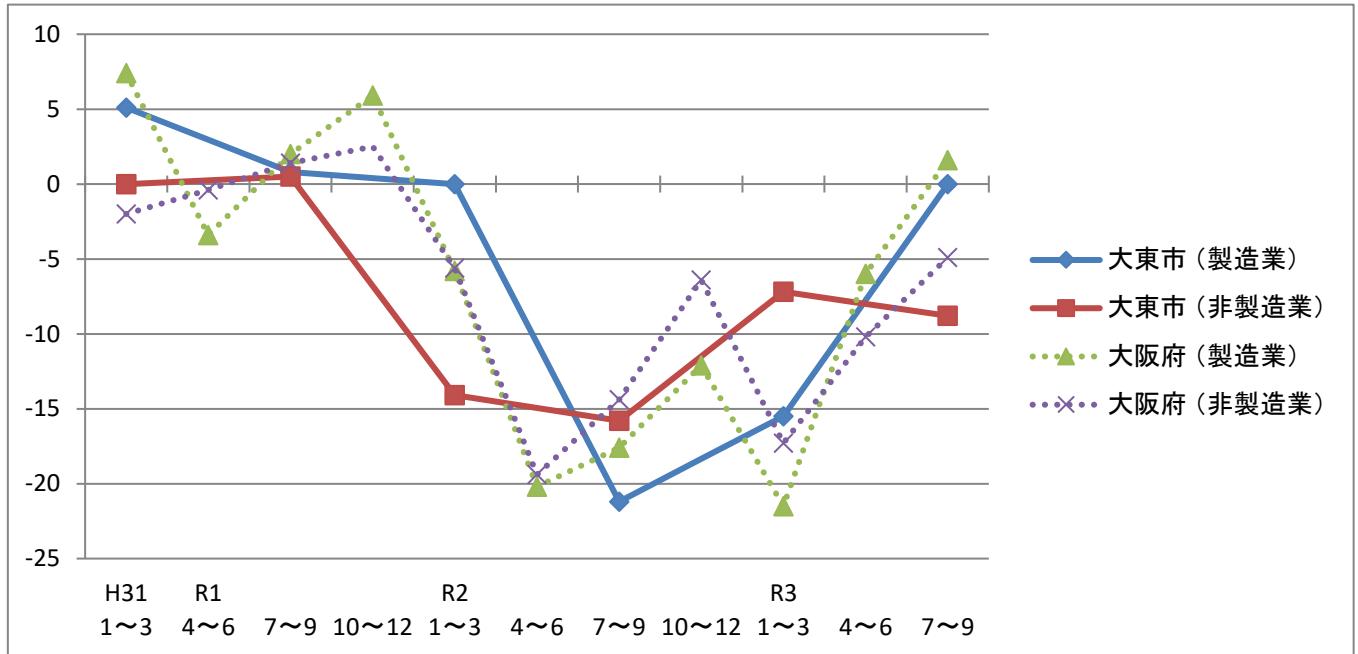
○雇用状況(雇用不足感)

雇用状況DI(「不足」-「過剰」企業割合) ⇒ 製造業:42.6% 非製造業:17.6%
 前回調査結果(製造業:20.7%、非製造業:16.3%)から、製造業・非製造業ともに雇用不足感が増加したが特に製造業での不足感が急増した。また、直近の大阪府データ(製造業:21.2%、非製造業:22.5%)との比較では、製造業は21.4ポイント上回り、非製造業では4.9ポイント下回った。市内では、製造業とともに建設業(36.5%)、卸売業(21.4%)の雇用不足感が目立つ形となつたが、他の業種ではやや一服感がみられる。



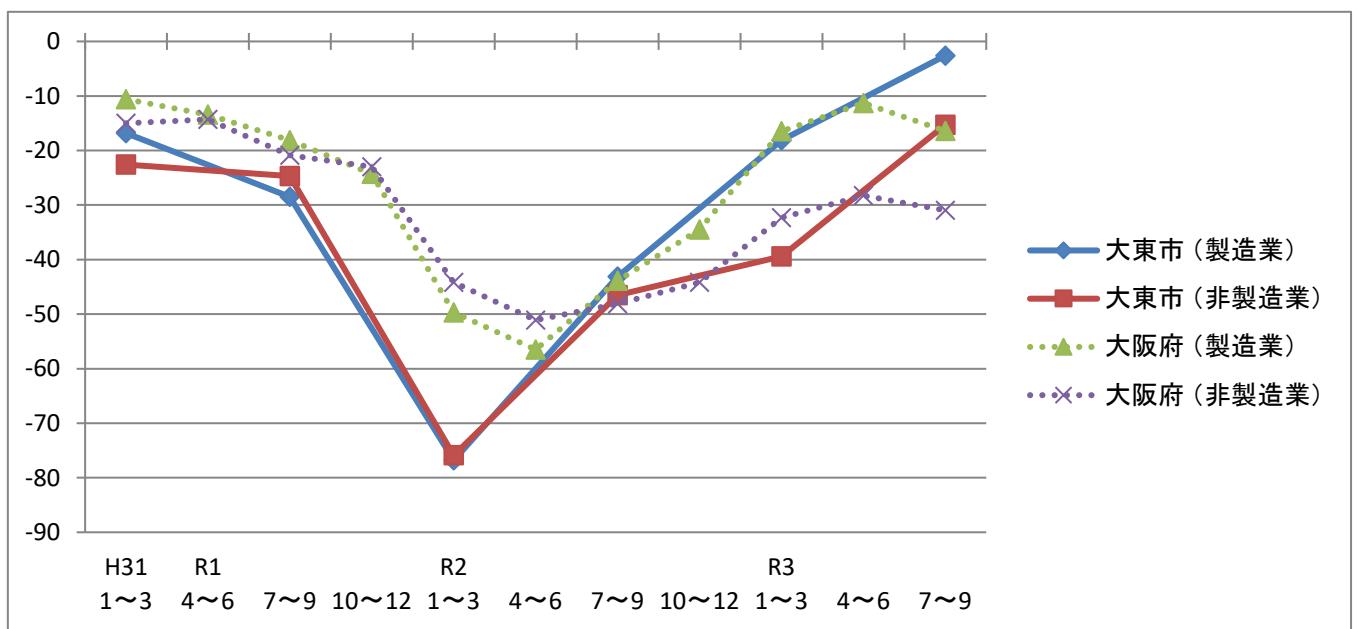
○設備投資

設備投資DI(「増加した」-「減少した」企業割合) ⇒ 製造業:0.0% 非製造業:-8.8%
 前回調査結果(製造業:-15.5%、非製造業:-7.2%)から、製造業は急増し、非製造業は僅かに減少した。
 また、直近の大阪府データ(製造業:1.6%、非製造業:-4.9%)との比較では、製造業は1.6ポイント、
 非製造業は3.9ポイントそれぞれ下回る結果となった。市内では飲食業(37.5%)が最も高い数値を示した。

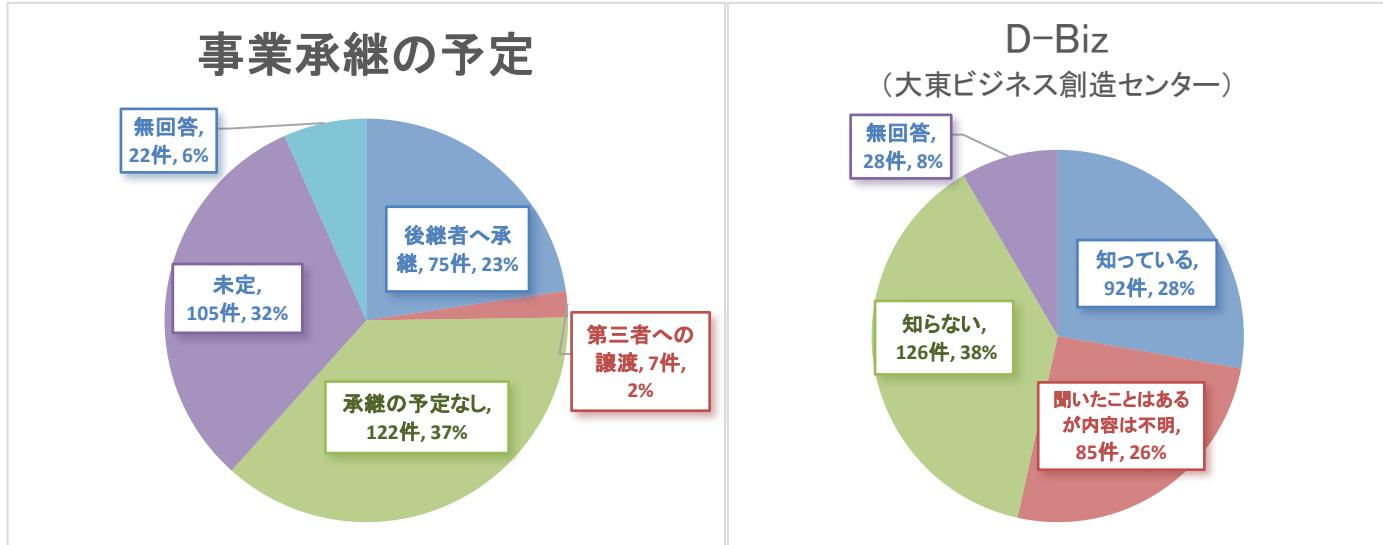


○来期の業況見通し

来期の業況見通しDI(「良くなる」-「悪くなる」企業割合) ⇒ 製造業:-2.6% 非製造業:-15.3%
 前回調査結果(製造業:-18.1%、非製造業:-39.4%)から、製造業・非製造業ともに大きく改善した。
 また、直近の大阪府データ(製造業:-16.4%、非製造業:-31.0%)との比較では、製造業は13.8ポイント、
 非製造業は15.7ポイント上回る結果となり、大東市内全体で大阪府の数値よりも明るい兆しがみられた。



« 特別調査項目 »



○事業承継の予定

第三者への譲渡を含め、事業承継の検討を進めている業種は、卸売業(32%)と製造業(31%)。「未定」との回答が多かったのは、飲食業(50%)と小売業(37%)。

○D-Biz(大東ビジネス創造センター)

D-Bizを「知っている」との回答が多かったのは、製造業(32%)と建設業(30%)。反対に、D-Bizを「知らない」との回答が多かったのは、飲食業(63%)と小売業(41%)。

産業分類	従業員数	自由意見
製版業	C	各自治体等の最新の助成金情報をわかりやすく教えていただけたら助かります。
舗装材料製造業	B	D-Bizについて知りたいです。
工業用プラスチック製品加工業	B	作業員がなかなか集まらない。
表面処理鋼材製造業	C	人手不足が最大の課題です。採用に経営資源(お金、労力)を向けていますが、目立った成果が出せません。生産能力を上げられず、受注制限も検討中。
表面処理鋼材製造業	C	各種自治体等の最新の助成金情報をわかりやすく教えていただけたら助かります。
アルミニウム・同合金圧延業	B	一部供給不足の影響で減産を余儀なくされたため、売上が不安定になっている。また中国経済の不透明感が増している。
電線・ケーブル製造業	C	社員の高齢化が進んでいる一方新規採用が順調ではないためバランスがとれていない。雇用について支援して頂きたい。
金属プレス製品製造業	C	経営課題 ①カーボンニュートラルへの対応、②材料費・部品費高騰による原価UPへの対応、③継続的な若手・新卒者雇用対応。
一般産業用機械・装置製造業	B	2020年5月位からほぼ開店休業状態となり、売上が0になりました。飲食店は休業補償があったようですが、製造業は貸付があつただけで、給付金も200万円のみでした。おかしくないですか?
工業製品等加工業	A	製造業売値がそのままで人件費だけが上がり続け経営が困難になってきている。零細企業では単価交渉も難しい。

産業分類	従業員数	自由意見
鉄骨工事業	C	大東市内の中学校、高校卒業予定で就職希望の学生さんの紹介等をして頂ければ有難いです。
塗装工事業	B	補助金や助成金を利用したいです。
塗装工事業	A	良い時と悪い時の繰り返しですが、良い時のほうが6:4の割合で多いので、その見極めがうまくいった感じです。
化学製品卸売業	A	得意先の製造業は業種によって明暗が分かれている。コロナ禍の長期化、資材調達が難しいことから年内は厳しいと感じる。
呉服・服地小売業	B	商工会議所より色々と情報発信等お世話を頂いて助けてもらっています。業種、会社により大小さまざまな問題を抱えている中、気軽に相談できる形として定期的に来訪してもらえるようなことは出来ないでしょうか？
男子服小売業	A	コロナ禍では人を集めることはだめ。街に活気をよみがえすためには、以前と同じ方法ではだめで、コロナに対応したイベントが必要となり、商いも従来とは違った売り方を考えなければならない。
婦人服小売業	A	コロナが急速に回復してきたことにより、顧客様に少しずつ帰ってきただいています。この良い流れを逆戻りさせないように、購買意欲がわく販促を市をあげて連発してほしいです。
靴小売業	A	コロナが落ち着いたら良くなると思う。
酒小売業	A	国は酒販店に対する補償制度を見直し、改善して公平な対応にしてほしいです。街の酒屋さんの必要性を取り上げてほしい。
写真機・写真材料小売業	A	コロナ禍が落ち着いたら飯盛城址の活用や市全体でのイベントなど、他市、他府県から的人が集中する事業を検討して頂きたいと思います。
ジュエリー製品小売業	A	腕時計の販売は益々インターネットによる売り上げが増えると思います。それ故、店舗売上が減りネット販売が増加してまいります。経費増に頭を痛めます。
不動産賃貸業	A	不動産賃貸料は、諸物価が高騰しているにもかかわらず、上昇するどころか下降している。大手の賃貸業者が入居率を上げるため賃料を抑えているのではないか？
駐車場業	A	コロナ禍において失業者及び生活困難者への支援をしてあげて下さい。
中華料理店	A	コロナが完全に終息するには、あと3~4年はかかるらしいので、感染対策が十分できて認証を受けた事業所には、緊急事態宣言が発出されてもできるだけ通常に近い営業を続けていけるようにしてほしい。
バー、キャバレー、ナイトクラブ	A	飲食業なのでずっと休業中です。また、いざ再開できた時にお客様が戻ってくるのが心配です。
理容業	A	このところコロナ禍においてお客様が減って1人もいないときもあります。みんな困っております。どうする事もできません。
その他の建物サービス	A	コロナ禍が早く終わってほしい。

* 従業員数 A…0～5人 B…6～20人 C…21～50人 D…51～100人 E…101人以上